

## 3-10 情報センター等部門研修会

本研修会は、教育活動を支援する情報センター等部門の在り方について、組織、体制、環境整備、教育支援業務等の視点から問題提起を行い、討議形式にて問題解決の方途を模索することを目的としている。なお、研修会の企画・実施・運営は研修運営委員会にて対応した。

### (1) 開催要項の決定と実施準備

昨年度まで設けていたネットワーク分科会は、通信技術が一般的なインフラとなりつつあり、運用管理の技術的な話題を取り扱う必要が少なくなったため取りやめ、効果的な学習環境、期待される基盤整備の在り方、センター組織の在り方について検討する「情報基盤整備分科会」を新たに設けることとした。また、事務の情報化支援分科会は、教育支援組織としての情報センターのあり方を論じ合うという本研修会の趣旨に沿わないことから、取りやめた。なお、情報部門マネジメント分科会、教育支援分科会は、昨年引き続き設け、より全学的な視点で教育支援の向上を目指すセンター職員のかかわりについて討議することにした。会場は、立命館大学を会場校とした。

### 第18回情報センター等部門研修会開催要項

#### 1. 目的及び内容

今日、大学の教育では、高度な情報技術を活用した魅力ある授業の提供が強く求められてきている。私情協の調査によれば、すでに3割の教員が教材作成、インターネットによる情報検索、Webページによる自学自習などに情報技術を活用しており、教育の質的向上を実現するための基本環境として「教育の情報化」が焦眉の課題となってきている。

大学の使命は、まさに教育の抜本的な改善を図ることである。とりわけ、大学の情報全般を取り扱う情報センター等の部門では、教育の情報化を実現するための中長期計画の策定をはじめ授業コーディネートなどの教育支援、教材の電子化促進、支援体制の構築、マルチメディア機器・ネットワークなどの環境整備について主体的に提言し、取り組むことが要請されてきている。

そこで、本研修会では、情報センター等部門のほかに図書館、AVセンター等の教育部門の教職員を対象に、各大学でのこれまでの取り組みや抱えている諸問題について意見交換を行い、各部門での教育支援のあり方、支援業務の内容、今後の情報環境整備のあり方について研鑽する。

#### 2. 基調講演

## テーマ：教育現場でのIT活用

教員の立場からITを活用した授業改善の内容とその取り組みについて体験を紹介いただき、それを踏まえて大学としての教育支援のあり方について問題点を整理し、改善策を提言いただく。

### 3. 各分科会の研修内容

#### 第1分科会 情報部門マネジメントコース

##### ・メインテーマ

情報部門に問われる存在意義「受け身のサービス」から「攻めのサービス」への転換

##### ・キーワード：スタッフの育成、人事異動、アウトソーシング、研究活動、

教育部門との連携、事務部門との連携

##### ・参加対象：情報部門および他の組織の情報化政策に関与する教職員

##### ・グループ討議の内容

システムやネットワークを行う「受け身」だけのスタッフで運用してきた情報部門も、今後は大学の教学理念に基づく教育の高度化や情報化を経営戦略的な視点から提言できる人材の育成を目指すことが重要となりつつある。こうした「主体的なサービス」をいかに実現することが可能なのかということが情報部門の存在意義になっていくと思われる。それには、情報部門だけで推進することに限界があることから、学内の他組織と連携を強めた新たな教育支援システムが必要とされるため、大学全体の活動を視野に入れて提言のできる人材育成の体制づくりも同時に行われなければならない。

本分科会では、情報部門スタッフの育成に関する問題点や情報部門の今後の位置づけ、将来像について討議を行う。

#### 第2分科会 教育支援コース

##### ・メインテーマ

「授業改革におけるITの活用と教職一体の教育支援」

—学ばせるための教育システムを構築するために—

##### ・キーワード：支援室、コーディネーター、コンテンツの作成支援、

情報リテラシとメディアリテラシ、著作権と権利処理、  
携帯端末の活用

##### ・参加対象：教育研究をサポートする情報センター、図書館、AVセンター、研究所等の教職員並びに管理者の方、また、直接講義を担当する教務部等の関連部局からの参加も歓迎する。

##### ・グループ討議の内容

いま、大学の授業は「教員が一方的に教える」ことから学生が主体的に「学ぶ授業」へと変化することが求められている。ITによる学習環境を提供することの必要性が語られる所以である。この分科会では、ここ数年、ITを活用した教育支援のあり方や課題について討議を重ねてきた。そこで明らか

になったことは、教員と職員が協力して授業を作っていくことの必然性であった。授業における教員の役割が変化していくなかで、職員には授業支援活動がますます要請されてきている。

この分科会では、昨年の研修会の成果を踏まえながら、授業支援に求められるサービスの内容、スキル、要員体制、学内組織間の連携、またサイトの運営や携帯端末の効果的な活用法など、学生の自立的学習を実現するための支援について、各大学の情報技術の活用状況を披瀝しあい、情報センターや図書館、AVセンター等関係諸機関が教育支援の役割を担うための方策について討議する。

### 第3分科会 情報環境整備コース

#### ・メインテーマ

大学のIT活性化を図るための情報環境のあり方

－先進的なセンター部門への展開と情報化を支える職員の意識改革－

キーワード：インフラ整備のあり方、センター組織のあり方、IT支援

・参加対象：教育・研究の情報化を推進する部門の教職員

・グループ討議の内容

情報センター等部門は、ネットワーク運用技術、IT技術、コンピュータ利用技術の高度化を推進しながら教育研究を支援するサービス機関として、また、IT技術を活用した企画、開発、技術ノウハウの蓄積、供与等を通して、部門間の業務連携を図り、より高度で効果的な教育研究支援を実現するために中心的な役割を担うことが求められている。

本分科会では、情報化を先導するセンター等部門として期待されるインフラ整備のあり方（マルチメディア機器等による教材作成環境の整備、教員に負担をかけないマルチメディア教室の整備、コンテンツ保全のためのセキュリティ問題、e-Learning実現のための環境整備等）、教員の情報技術能力の研修、学内での電子著作物の取り扱い、組織のあり方などの問題点等について検討を加え、「IT活性化を図るための情報環境のあり方」について職員の意識改革も視野に入れ討議する。

4. 実施日程：平成14年10月30日（水）～平成14年11月1日（金）

5. 会場：立命館大学衣笠キャンパス

## （2）開催結果

参加者は、95大学、2短期大学、賛助会員6社から総勢142名であった。

開催結果の詳細は、資料編【資料12. 研修会関係資料】を参照されたい。

次年度は、情報技術を活用した教育支援や学内組織体制の問題は大学全体として取り組む問題であるので、14年度をもって廃止となるが、大学情報化職員研修会の分科会に組み入れて研修することとした。